

静岡県漁業協同組合連合会

1026 静岡市追手町9-18

15.1.17 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

1. 農林水産省、平成13年度の食糧需給表を発表 魚介類需給率53%で横ばい

農林水産省では、このほど平成13年度の我が国の食料需給表を公表しました。

それによると(供給熱量需給率)は40%で、前年度に比べ横ばいとなり、重量ベースの品目別の需給率は、魚介類は全体で49%で前年度に比べ4ポイント低下したが、このうち飼肥料・餌料を除く食用向けについては前年度並の53%となり、近年の低下傾向に歯止めがかかったかたちになりました。

魚介類全体の需給率が低下したのは、国内生産量が引続き減少する中で、輸入は増加し、輸出や在庫の増減を加味した国内消費向け量が増加したためです。その中で、食用魚介類の需給率が横ばいになったのは、BSEなどの影響で水産物の需要が伸び、国内生産量の内食用に仕向けられた量が増加したことが背景となりました。

一方、海藻類は62%で1ポイント低下しました。このほか米は95%、小麦11%、大豆5%、果実44%、野菜82%など昨年と同様となり、肉類は53%で1ポイント上昇しました。

また、年間1人当たりの供給純食料は、魚介類は38.7キログラムで前年度に比べ4%(1.5kg)増加し、海藻類は1.4kgで横ばいとなりました。

魚介類の需給動向(原魚換算重量)は、国内生産量は546万6,000トン(前年比4.7%減)、輸入量は672万6,000トンで(14.3%増)、輸出量は37万5,000トン(35.2%増)、在庫の増減量は57万1,000トン増、この結果、国内消費仕向け量は1,126万4,000トン(4.2%増)となりました。

国内消費向けのうち、食用向けは879万7,000トン(3.1%増)、非食用向けは246万7,000トン(8.1%増)。食用向けを国内生産・輸入別にみると、国内生産から仕向けられた数量は468万トン(3.7%増)、輸入によるものは440万8,000トン(3.7%増)でした。

食用向けのうち、生鮮・冷凍向けは398万9,000トン(8.8%増)、塩、干、燻製、その他向けが342万トン(1.8%増)、練り製品向けが109万トン(6.2%減)、缶詰向けが29万5,000トン(12.7%減)でした。また、非食用向けのうち飼肥料向けは172万3,000トン(20.2%減)、餌料向けは74万4,000トンでした。

2. 平成13年度海面漁業、養殖生産額まとまる 3年連続で前年を下回る

静岡統計情報事務所が昨年12月に発表したところによると、平成13年度(1~12月)の静岡県の海面漁業・養殖漁業生産額は552億6,000万円(前年比8%減)となり、3年連続して前年を下回りました。内訳は、遠洋漁業が178億8,400万円(24%減)、沖合漁業は172億7,700万円、沿岸漁業は163億9,400万円(12%増)で海面漁業の合計額は515億5,500万円(8%減)であ

り、海面養殖漁業は37億500万円(1%増)でありました。

部門別生産額をみると、遠洋漁業では遠洋かつお一本釣がピンナガマグロの豊漁により前年比増加しましたが、遠洋巻網、遠洋マグロ延縄で漁労体数が大幅に減少したことから漁獲量が減少し生産額も前年比大幅に減少しました。この結果遠洋漁業全体の生産額も大幅減となりました。

沖合漁業は、近海巻網、近海かつお一本釣でカツオ価格の回復により生産額増加したが、大中型巻網の漁獲量が大幅減少したことが影響し全体生産額も減少しました。

沿岸漁業は、シラス、サクラエビ漁獲量が減少しましたが、価格の上昇により、全体の生産額も増加しました。海面養殖漁業は、マアジ、ブリ類などが価格の低下で生産額は減少しましたがマダイ養殖の収穫量の増加に加え価格が堅調に推移したことから生産額が増え、全体の生産額も増加しました。

3. 「えひめぎょれんパールフェア2003」開催のお知らせ

本会資材課では、全漁連及び愛媛県漁連の協力を得て、本年も来る1月31日(金)~2月2日(日)の3日間、静岡中央ビル(県水産会館)5階大会議室において、“今、輝ける女性(ひと)のパールジュエリー”をテーマとして「えひめぎょれんパールフェア2003」を開催致します。会場には、日本一の真珠生産量を誇る真珠の本場、愛媛県宇和島産の選りすぐった真珠製品の展示販売をはじめ、賢いパールの選び方教室や真珠生産歴史パネル展のほか、えひめぎょれんパールレディ「ミス オンド アール」も来場する予定になっておりますので、是非お誘い合わせのうえ、多数ご来場下さるようご案内致します。

なお、開場時間は午前10時~午後7時(最終日は午後5時)です。

4. 1月は「食を考える月間」農林水産省が制定

農林水産省は、今年から毎年1月を「食を考える月間」と定め、国・地方公共団体・関係団体が連携し、食生活や安全・安心について国民に考えてもらうための取組みを集中して実施していくことになりました。

主なイベントとしては、1月14日に月間創設を記念する「食を考える国民フォーラム」が東京で開催され「日本人の食生活はどう変わってきたか」「スローフード(てまひまかけて作る食生活)の現代的意味」をテーマとする講演やパネルディスカッションが開催されました。また、農林水産省「消費者の部屋」では1月14日から31日まで、「食育」「食の安全・安心を考える」「トレーサビリティシステム(生産履歴)を考える」のテーマで特別展示会が開催されます。水産関係では1月14日~31日にかけて関東農政局が主催する各地の地産地消フェアに全漁連が協力することになっており、本県においては特産物のサクラエビ料理が候補に挙がっています。

5. 諸会議・日程 (1月21日(火)~2月3日(月))

2月3日(月) 県棒受鯖釣漁業組合 = 通常総会 (熱海市・後樂園)

- 既報分省略 -